

## 2020. 9. 5 4野党合同街頭演説大要

皆さんこんにちは。日本共産党の斉藤信でございます。今回の4野党街頭演説は、安倍首相の突然の辞任表明を受けて、市民と野党の共闘で安倍政治の転換を目指す決意を示そうと1日の実務者会議で急遽決めたものです。

皆さん。安倍首相の辞任は病気のためですから、これは仕方がないものです。しかし、その根本に、7年8か月に及ぶ「安倍政治」のあらゆる分野での行き詰まりと破綻があったのではないのでしょうか。「安倍政治」をここまで追い詰めた力は、国民の世論と運動、市民と野党の共闘の前進です。このことに確信をもって構成的に安倍政治の転換目指し頑張ろうではありませんか。

「安倍政治」の負の遺産として特に重大だったのは、5年前に安保法制＝戦争法を強行したことです。憲法違反の集団的自衛権行使を容認する暴挙は、憲法解釈の乱暴な改ざんであり、憲法まで私物化するもので、その後の「森友・加計学園」問題、「桜を見る会」問題など国政の私物化とモラルの崩壊をもたらしました。暮らしの問題では、二度にわたって消費税を増税し13兆円もの増税を押し付け、暮らしと経済に大打撃を与えました。そして、新型コロナへの対応では、全国一律休校やアベノマスクなどの外的迷走を繰り返しました。

今、自民党の総裁選が行われていますが、3人の候補者全員が安保法制＝戦争法を強行した時の内閣の一員でした。さらに、「安倍政治」の継続を主張しています。「安倍政治」の継続、政権のたらいまわしではなく、「安倍政治」からの根本的な転換を実現しようではありませんか。

安倍首相の辞任によって、新しい激動の時代が始まりました。誰が新たな総裁・総理となっても、国民の審判を受けていない不安定な政権にならざるを得ません。早い段階での解散・総選挙も予想されます。安倍政治とのたたかひの決着は総選挙でこそつけようではありませんか。

市民と野党の共闘こそ、政治を変える力です。今度の総選挙は、野党連合政権を目指す選挙です。そのために、野党共闘をさらに前進させるためにもともに力を尽くそうではありませんか。日本共産党は、皆さんと力を合わせ、誠実に、全力で奮闘する決意を表明し、私の訴えといたします。共に頑張りましょう。